声なき感染症を知る ◆19◆

# インフルエンザへの備え

## 新ワクチンは4価に

## 持病ある人は要注意

県感染症情報センター

インフルエンザウイルスは、呼吸と共に侵入し、のどや気管支などで増殖し、発病する感染症です。

冬季に流行を繰り返すものを「季節性インフルエンザ」と呼び、新しく現れたウイルスを「新型インフルエンザ」と呼び区別しています。今回は、インフルエンザの基礎的な知識と備えについて話をします。

▽季節性インフルエンザへの対応

毎年、繰り返している季節性インフルエンザには、A型に分類されるAH1pdm（2009・10年に「新型」として流行したウイルスに類似したもの）、AH3（香港型）とB型があります。

わが国では、おおむね人口の10～20％程度（推定約1000万人）の患者が発生していると言われています。多くの人は、これまでに感染したことがあり、既に基本免疫を持っているため、比較的症状は軽く数日で自然に回復するのですが、一度もかかったことのない子どもや、持病のある人たち（ハイリスクと呼びます）は注意が必要です。重症化して、肺炎や脳症などの合併症を起こすことがあるからです。

▽今シーズンのワクチン

特に、ハイリスクの人や、ハイリスクの人と同居したり介護をしたりする人には、ワクチン接種を受けてもらいたいものです。

わが国で接種されるワクチンは「不活化ワクチン」（殺して毒性をなくしたもの）で、ワクチンの基となるウイルス株の選定には、地方衛生研究所と国立感染症研究所で行う、国内で流行するウイルス抗原解析結果と、WHO（世界保健機関）世界インフルエンザ監視・対応システムで得られた世界各地の情報などから総合的に検討を行い、次年度シーズンの予測を行いウイルス株が選定されるのです。

これまでは、3価（3種のウイルスに対する免疫を作る）からなるワクチンでしたが、今シーズンは、もう1種のB型を加えた4価ウイルスが採用され、これまでよりB型に対して高い防御効果をもたらすことが期待されています。

▽新しいウイルスへの対応

世界的な流行が危惧される、AH7N9と呼ばれる新しい型のウイルスを紹介します。

2013年、中国・上海市で、鳥に寄生する鳥インフルエンザウイルスが、人に感染を起こしたのです。その後、感染者は中国沿岸部の浙江省、上海市、江蘇省などに拡大し、200人以上の死者を出すこととなりました。翌年の春には鎮静化していたのですが、再び患者が確認され、今年も200人を超える患者が発生しています。

調査からは、人から人への持続的感染は確認されておらず、感染源は家禽（かきん＝ニワトリ、アヒル、ウズラなど）からの直接感染した可能性が高いと報じられています。WHOは、そのような状況から発生地域への渡航に際し、養鶏場への立ち入りや、生きた家禽類を取引する市場への立ち入りを避けるよう助言しています。

今後、流行地域への渡航を計画している方は、検疫所ホームページの感染症情報に注意し、最新の情報を収集することと、現地では基本的な感染症の防御対策（手洗い、うがい、マスクの着用など）を確実に守ることをお勧め致します。

（県感染症情報センター）

＝第2木曜日掲載＝